

二〇一五年度 A日程 【国語】

一 (42点)

- 問1 2点 決して自分の意見を曲げようとしない頑固者
- 問2 4点 ほかの人がどう答えるか、ほかの被験者もみんな知ることができるといふこと。
- 問3 各2点 1 イ 2 エ 3 ア
- 問4 各2点 a イ b ア c エ d ウ
- 問5 各2点 色・形・大きさ(大小)・線の種類 (順不同)
- 問6 2点 ア
- 問7 各5点・示された図形のいちばん印象に残る特性で答える人が多く、バラけたものであった  
・サクラよりあとに答えた人は色の回答率が増加し、サクラと同じように色だけで回答する人も現れた
- 問8 2点 イ

解説

問2 (読解・内容把握)

設問は「この実験の第二のポイントのねらい」を問うものなので、正解は第二のポイントについて述べた段落の「つまり」以下の内容となる。

問7 (読解・内容把握)

「サクラ」より前に答えた人と後に答えた人では回答の質がどのように違ってきたのかを正確につかむこと。また、解答欄に合う形で答えなければいけないので注意すること。

二 (28点)

- 問1 3点 口を開いたとたん。話を始めるやいなや。
- 問2 各2点 a 点検 b 週刊誌 c 看板 d 遊具
- 問3 2点 金曜日
- 問4 ( ) (2点 歯医者特有のにおい) (が) ( ) (4点 歯医者への恐怖心がさらに強くなること。)
- 問5 2点 エ
- 問6 2点 ウ
- 問7 3点 初め それはさっ 終わり しまった。
- 問8 2点 ア

解説

問1 (語句の意味)

「開口一番」は「口を開いたとたん。話を始めるやいなや」という意味で副詞的(動詞を修飾する)に使う言葉。「口を開いて一番に話す言葉」という意味ではない。

問4 (読解・心情把握)

「毛羽立つ」とは紙や布などの表面がこすれて、ほつれ乱れること。ここでは「私」の、歯医者が「ただでさえ怖い」という気持ちに「歯医者特有のにおい」によってさらに強くなることを表す比喩表現となっている。

三 (20点) 各2点

- (漢字) 1 舌 2 耳 3 口 4 歯 5 手
- (記号) 1 ア 2 エ 3 オ 4 ウ 5 イ

解説

(慣用句)

体の部分を使った慣用句を後の各文に当てはめる形で完成させる。2は「耳」でも「手」でも慣用句があるが、後のエには「耳」があてはまる。

- 【四】(10点)各2点  
1 エ 2 ア 3 オ 4 イ 5 ウ

【解説】(表現技法)

1は擬音(擬声)語、2は擬態語、3は直喩表現、4は擬人法、5は対句表現が用いられている。

【出典】

【一】川北 義則 『人間関係のしきたり』 PHP研究所 (2007年)

【二】豊島 ミホ 『五月の虫歯』『夜の朝顔』より) 集英社 (2009年)

【出題のねらい】

【一】人と人との付き合い方についての心得を説いた評論。集団の中に頑固者が一人いることが健全な集団を維持する秘訣であることを、ある心理学の実験を例に挙げながら述べている。実験の方法、ねらいを正確につかみ、頑固者が集団や組織にどのような影響を与えるのかを論に沿って読み解くことをねらいとしている。

【二】思春期の入り口に至る少女の成長過程を繊細に描いた豊島ミホの小説。歯医者への恐怖心が母親とのやりとりの中で微妙に変化していく様子を、主人公の心理描写を正確に押さえながら読み解くことをねらいとしている。

【三】慣用句の正しい使い方を問うことをねらいとしている。

【四】表現技法(修辞法)の見分け方を問うことをねらいとしている。

【講評】

【一】記述問題以外は全体としてよくできていた。問2は半数以上の受験生が「第二のポイントのねらい」ではなく「第二のポイントの方法」について述べた部分を答えていた。問7は「サクラ」の前に答えた人と後に答えた人の、答え方の質の違いについて過不足なく具体的に答えた人は少なく、正答率が低かった。

【二】問2の漢字、文脈から慣用表現の意味をつかむ問5・問6はよくできていた。問4の( )は「〜が〜なること」という主語・述語を明確にした答え方ができておらず、正答率が低かった。

【三】体の部分を当てはめることに気づけば漢字は易しかったため、よくできていた。

【四】1の擬音語と2の擬態語の識別にやや間違いが目立ったが、その他はよくできていた。